



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

## ハダニ類の多発に注意しましょう!

### ナミハダニ



主に葉裏に寄生し、吸汁することで**白い小斑点**が発生。大量発生すると、葉は黄化し、枯死する。また、**葉や花にくもの巣が張ったような状態**となる。施設では1年中寄生し、特に高温・乾燥条件で増殖が激しく、短期間で高密度となる。低温期でも、暖房機の周辺などで多発。**25℃では約10日で1世代**を繰り返し、1匹当たりの産卵数は100~150個。

冬			春			夏			秋		
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月



この時期は増殖スピードが速く、多発すると防除が難しいです。早めの対策がおすすめです!

- ◆ 圃場内あるいは圃場周辺の雑草が発生源となるので、除草を行う
- ◆ 苗による持ち込みを防ぐ
- ◆ 管理温度が高いと増殖が旺盛となるので、適正な温度管理を行う
- ◆ 同一薬剤の連用は薬剤抵抗性の発達に繋がるので、ローテーション散布を心掛ける

時期	IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	使用量・希釈倍数	使用時期	回数
定植時	P2	白さび病	inochioキクツチャ粒剤	○	—	6~9kg/10a (作条土壌混和)	定植時	1回
生育初期	M03	白さび病	アントラコール顆粒水和剤	○	—	1,000~2,000倍	発病前~ 発病初期	6回
	23	アザミウマ類・アブラムシ類 ハダニ類	inochio セイレーンフロアブル	—	—	2,000倍	発生初期	3回
消灯時	11	褐斑病・黒斑病 白さび病	メジャーフロアブル	○	○	2,000倍	発病初期	3回
	30	アザミウマ類・ハダニ類 オオタバコガ・ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	—	—	2,000倍	発生初期	2回
発蕾時	34	アザミウマ類	ファインセーブフロアブル	—	—	2,000倍	発生初期	2回
	20D	ナミハダニ	マイトコーネフロアブル	—	—	1,000倍	開花前まで	1回
破蕾期	7	白さび病	カナメフロアブル	○	○	4,000~8,000倍	発病初期	3回
	33	ハダニ類	ダニオーテフロアブル※	—	—	2,000倍	発生初期	2回

! 地域の防除事例を基に作成しています(輪菊栽培)。品種、栽培条件によっては薬害が発生する場合がありますためご注意ください。さらに、展着剤・葉面散布剤等を加用する場合もご注意ください。

※花き類・観葉植物登録

## サフオイル乳剤

- 気門封鎖剤なので、他剤の感受性低下害虫に有効
- ハダニ類の全ステージに有効 (殺卵効果あり)
- 使用回数に制限が無い

300~500倍/ 収穫前日まで / ハダニ類

※展着剤の加用を推奨

※高温時は薬害の恐れがあり、使用を避ける



## フーモン

有効成分が害虫をすばやく窒息死させます!  
気門封鎖剤を利用して  
他剤の使用回数を抑えましょう!

ハダニ類 1,000倍  
収穫前日 回数制限なし

※高温時の使用注意 ※混用不可薬剤あり

